

平成 24 年 2 月 23 日
東日本高速道路株式会社

高速道路休憩施設の防災拠点化検討状況について
～常磐自動車道 守谷SAのモデル事業化～

昨年 10 月の定例記者会見にて発表した中期経営計画(2011-2013)の事業のうち、「SA・PAの防災拠点化」について、現在までの検討状況についてお知らせいたします。

1. 対象となるモデル箇所

防災拠点化の検討に当たっては、首都直下地震への対策とし、常磐自動車道の柏IC～谷和原IC間に位置する守谷SA(茨城県守谷市)をモデル事業※として、特に首都圏に向かう上り線を中心に検討を進めております。

2. 検討状況について

具体的な検討の進め方としては、「検討準備委員会」を平成 23 年 12 月 20 日に立ち上げ、陸上自衛隊東部方面隊など災害時に被災地へ進出する機関と防災拠点として必要となる各種機能を検討する民間企業により検討を進めております。

現在は、自衛隊、警察、消防等から防災拠点へのニーズを把握し、そのニーズに対応する機能や性能、整備方法などについて、関係機関合わせて10数者と検討を進めております。

なお、現時点での、主な防災拠点機能は、別添イメージ図となっております。

3. 今後の予定

来年度早期の時点に、守谷SAの防災拠点化の各種防災機能を取りまとめたマスタープランを確定し、順次、機能整備を進めていく予定としています。

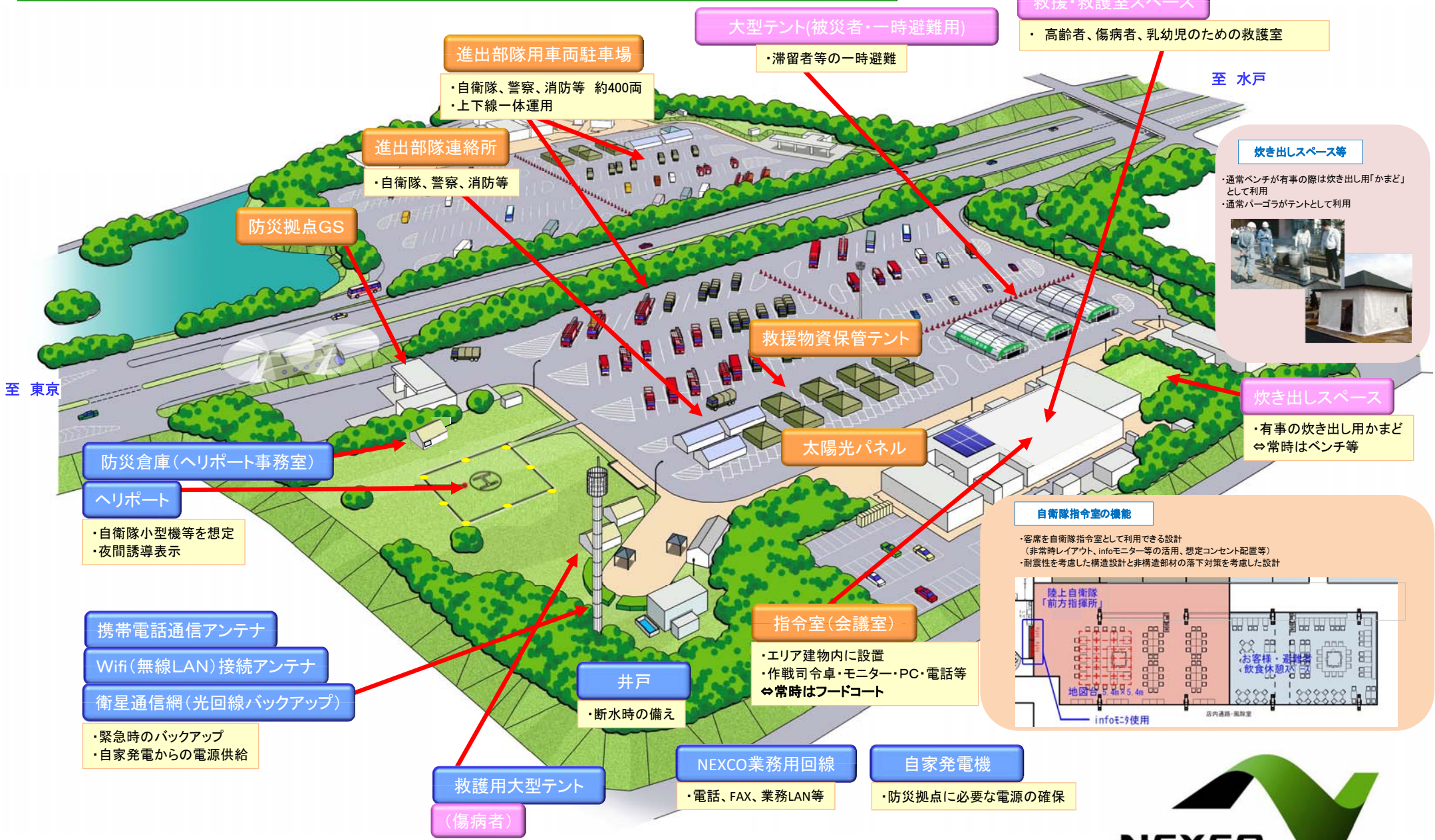
また、今後、震災対応の拠点として広く展開される防災拠点のモデルケースとなるよう、国及び関係機関と調整してまいります。

守谷SAの防災拠点化事業につきましては、今後とも適宜お知らせしてまいります。

※モデル事業箇所の選定について

守谷SAは中央防災会議の計画において、進出拠点であること、ヘリポートが整備されていることなどから選定。

守谷SA 防災拠点化イメージ・パース図



進出部隊用車両駐車場
 ・自衛隊、警察、消防等 約400両
 ・上下線一体運用

進出部隊連絡所
 ・自衛隊、警察、消防等

防災拠点GS

大型テント(被災者・一時避難用)
 ・滞留者等の一時避難

救援・救護室スペース
 ・高齢者、傷病者、乳幼児のための救護室

至 水戸

炊き出しスペース等

- ・通常ベンチが有事の際は炊き出し用「かまど」として利用
- ・通常パーゴラがテントとして利用

救援物資保管テント

太陽光パネル

炊き出しスペース
 ・有事の炊き出し用かまど
 ⇄ 常時はベンチ等

防災倉庫(ヘリポート事務室)

ヘリポート
 ・自衛隊小型機等を想定
 ・夜間誘導表示

携帯電話通信アンテナ
Wifi(無線LAN)接続アンテナ
衛星通信網(光回線バックアップ)
 ・緊急時のバックアップ
 ・自家発電からの電源供給

井戸
 ・断水時の備え

指令室(会議室)
 ・エリア建物内に設置
 ・作戦司令卓・モニター・PC・電話等
 ⇄ 常時はフードコート

自衛隊指令室の機能

- ・客席を自衛隊指令室として利用できる設計 (非常時レイアウト、infoモニター等の活用、想定コンソール配置等)
- ・耐震性を考慮した構造設計と非構造部材の落下対策を考慮した設計

救護用大型テント (傷病者)

NEXCO業務用回線
 ・電話、FAX、業務LAN等

自家発電機
 ・防災拠点に必要な電源の確保

